

# 青葉区明るい選挙推進作文コンクール 2021

「青葉区明るい選挙推進作文コンクール 2021」表彰式を実施しました。今年度は区内中学校2校から90作品のご応募がありました。

厳正な審査の結果、8名が入賞しました。一人一人が選挙についての興味関心を意見に変えて丁寧に記載されており、有権者となるまで約3年の期間を考える良いきっかけとなりました。

## 【入賞者一覧】

賞	題名	学校名	入賞者氏名
青葉区明るい選挙推進協議会 会長賞	「自分たちの未来を」	鴨志田中学校	小林 桔花さん
青葉区選挙管理委員会 委員長賞	投票率増加への第一歩	鴨志田中学校	横溝 悠さん
青葉区長賞	より良い選挙に	鴨志田中学校	大森 正慈さん
えら坊賞	なぜ選挙に行く必要があるのか	鴨志田中学校	伊関 暖さん
	若者が投票するには	鴨志田中学校	廣橋 杏香さん
	一票の重み	鴨志田中学校	河上 晴登さん
	選挙を身近にするために	鴨志田中学校	井澤 美南さん
	選挙がやってくる	山内中学校	能城 茉依さん

上位3賞の作品を本誌中面に掲載しています。全入賞作品は青葉区明るい選挙推進協議会のHPに掲載しています。

## 令和4年度は参議院議員通常選挙が予定されています！

Q: 参議院議員が半数ずつ改選されるのはなぜ？

A: 参議院議員の任期は6年で、3年ごとに議員の半数が改選されます。これは、議院の継続性を保ち、国会の機能の空白化を防ぐことを目的としています。

Q: 比例代表制の「拘束名簿式」と「非拘束名簿式」の違いは？

A: 「拘束名簿式」…有権者は政党名で投票し、各政党の得票数に応じて議席数が配分されます。当選者はあらかじめ各政党から提出される名簿の上位から決まります。

「非拘束名簿式」…有権者は、政党名か名簿に掲載されている候補者個人名のどちらかで投票します。議席数は政党名と個人名の得票数の合計に応じて配分され、当選者は個人名の得票数が多い順に決まります。(参照:参議院 HP より)

## 編集後記

横浜市長選挙・衆議院選挙では、推進員の皆様に、ご協力いただきありがとうございました。コロナ禍にも負けず、今後も啓発活動に取り組んでまいります。残り1年の任期ではございますが、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

あおばイコット通信  
令和4年3月号

<編集・発行>  
青葉区明るい選挙推進協議会

<事務局>  
青葉区総務課統計選挙係  
TEL:978-2205 FAX:978-2410

令和4年3月号 青葉区明るい選挙推進協議会の「今、をお届け！」

# あおばイコット通信 No.74



☆せんきょフォーラムを実施しました！

☆青葉区明るい選挙推進作文コンクール 2021 特集！



## 「せんきょフォーラム」実施報告

今年度の「せんきょフォーラム」は全4校で実施することができました。横浜市長選挙と衆議院議員総選挙の影響もあり、非常に関心が高く、実りのある時間となりました。

1月に実施したみたけ台小学校では、感染拡大状況を踏まえ、初めてのオンライン授業を行いました！



☆アンケート結果(実施全4校)

- 出前授業の内容は、よくわかりましたか？  
1.よくわかった:85.1% 2.ふつう:14.1% 3.わからなかった:0.8%
- 「模擬投票」は楽しかったですか？  
1.楽しかった:87.5% 2.ふつう:11.1% 3.楽しくなかった:1.4%
- あなたは、18歳になったら選挙に行こうと思いますか？  
1.思う:77.5% 2.思わない:3.0% 3.わからない:19.5%

☆感想

- 模擬投票の結果が2票差となり、自分の一票がどれだけ大切かが分かりました。選挙権を持ったら必ず投票に行きたいと思います。このような体験ができ本当に良かったです。
- 選挙があるから、今の日本があると考えると、とても大事なものだと思いました。



ご参加いただきました小学校の皆様、  
ありがとうございました！



### 青葉区明るい選挙推進協議会会長賞

#### 「自分たちの未来を」

鴨志田中学校三年 小林 桔花さん



家の中にいると、ふと外から選挙カーの音が聞こえてきた。もう選挙の時期なのか、と思いながら耳を傾けると、「カジノ」という一語がはつきり聞き取れた。

この横浜にリゾート施設ができるかもしれない。そんな話は、まだ選挙権を持たない私にもしつかり届いていた。そして、その施設の中にあるカジノについて、様々な意見があるのも知っていた。確かに、カジノがあることによって、経済に良い影響はあるはずだ。しかし、治安の悪化や、ギャンブル依存症の増加に不安の声もある。どちらかという私は後者側だった。治安が悪くなると、横浜が汚れてしまうような気がしたからだ。

実際のところ、次の横浜市長選挙で、施設について着目した選挙が行われるだろう。ここで市長が賛成か反対か、どちらを考えているかを知り投票しないといけない。横浜の未来が、そこで決まると言っても過言ではない。

最近投票率が低下している。高齢者が投票してばかりで、若者はあまり投票していない。そんな話も聞いたことがあった。調べてみると、確かに十歳代、二十歳代の投票率は低かった。特に二十歳代が低く、十歳代は二番目に低い。これは、十八歳でやっと投票権を手に入れ、興味本位で投票してみたが、二十歳になってからは興味が無くなった、というような理由もあると思う。今現在、少子高齢社会となっている日本で、このような結果が出てしまうのも無理はないのかもしれない。しかし、これからの未来を引き継ぐ若者たちにこそ、投票はしてほしいはず。自分の考えを持っているのに選挙に参加しないなら、尚のこと無駄である。

二〇一六年、十八歳以上の男女に選挙権が与えられた。若者たちに、未来をより早く考えさせる時代が来た。まだ選挙権を持たない私たちも、自分たちの住む町を大切にするため、日々選挙について考えなければいけない。カジノ問題、コロナ問題、私たちが生きていく時代にも、もっと多くの問題が発生するだろう。私たちがより生きやすい場所を作るには、選挙は必要不可欠だ。改めて、そう考えることはできないだろうか。

私が選挙権を獲得するまで、あと約三年。「まだ選挙権を持っていないから、選挙についてあまり考えなくて良い。」じゃなく、「この三年でより未来を良くするためにできることを考える」ようにしたい。誰もが幸せになり、安心した生活を送る場所は、私たちが作るのだ。

### 青葉区選挙管理委員会委員長賞

#### 投票率増加への一歩

鴨志田中学校三年 横溝 悠さん



三十七・二一。皆さんは、この数字が何を表しているか分かるだろうか。これは二〇一七年に行われた、前回の横浜市長選挙の投票率だ。私は、この数字が決して高いとは思わなかった。しかし、そう思っている私自身も将来投票には行かないかもしれない。なぜなら、選挙というものへの理解が少なく、無関心な部分があるからだ。では、どうしたらこの投票率を上げ、政治・社会活動の活性化につなげていくことができるだろうか。

ニュースなどでよく年代別投票率を見かけると、高齢者が多く、若者の割合が少ないイメージを受ける。原因として、「自分が投票しなくても影響はない」「面倒くさい」など、やはり政治に対する関心の薄さが投票率の低さにつながっていた。そこで私は、海外での投票率や選挙について調べてみた。すると、トップのベトナム、オーストラリア、シンガポールなどは九十パーセントを超えており、日本とは約五十パーセント以上の差があることが分かった。この事実を受けて、さらに私は、海外の国々が行っている対策や工夫についても調べてみた。シンガポールやオーストラリアでは罰金制度を定め、強制的に投票させるようになっていた。これによって、百パーセントに近い投票率を得られているものの、やや堅苦しい感じもある。一方、同じく投票率の高いスウェーデンでは社会科の教科書に、投票に行くことや、自分の意見を社会に反映させるために集会やデモを行うことが大切だと書かれてい

る。また学校内では投票が行われることが多く、選挙に関する学校教育が充実している。さらに、給食・学生寮の建設などお金が絡む大事な決定会議の場に子どもが参加して決めることができ、その内容が実際に反映されることもある。

私は、我が国でもこのような機会を設け、自分たちの意見で世の中が変わるということを日常的に経験できるようにし、社会の仕組みに対する関心を深められればいいと思う。それに加えて、インターネットでの投票を可能にするなどにより身近で手軽にできるようにすることで、「関係ない、難しい」という印象から、「投票しよう」という意識に変わり、その意識が一票一票の投票数の増加につながると思う。しかし、その手軽さが票の増加だけでなく、軽々しく投票する人を生むかもしれない。ここで、一番忘れてはいけないのは選挙本来の目的だ。選挙は、私たちの社会をより良くするためにある。違う方向から言えば、私たちの票が今後の社会を左右しているのだ。私たちが今後を作り、生きていく社会を明るくするために、私たちが一人一人が他人任せにせず、自ら進んで選挙を学び、そして選挙に公正かつ積極的に参加することが大切だ。

今年の八月末に、横浜市長選挙が行われる。私はまだ投票できないけれど、選挙について調べたり聞いたりして知識を蓄え、将来に役立てられるようにしていきたい。

### 青葉区長賞

#### よりよい選挙に

鴨志田中学校三年 大森 正慈さん

八月二十二日の横浜市長選挙の投票率は四十九・〇五パーセントだった。前回よりも十一ポイント増加したというものの、まだ半分にも達していない。私のクラスで例えると、三十二人中十六人未満の人しか投票していないことになる。そう考えると、まだ物足りなく感じてしまう。投票は国民の権利だ。もっと積極的に意見を出すべきである。

だが、これほど投票率が低くなることも無理はないのかもしれない。選挙が、どこか遠い存在に感じてしまうからだ。日常生活で選挙の話を目にすることも少ないし、ご高齢の方が投票に行く印象があつて堅苦しく感じてしまう。

では、どうすれば投票数を多くできるのだろうか。二つ考えてみた。

第一に、投票場所を増やすこと。現在は学校や地区センターなど地域の施設に限定されていることが多い。そこで、駅やバス、インターネットなどの投票を可能にしてみたらどうだろう。駅やバスの中なら通勤中に投票ができる。バス内の投票に関しては愛知県や静岡県などで実践例があり、有権者から好評を得たという。このように投票に手間がかからないようにすれば、忙しい人でも参加できるようになると思う。

第二に、特典をつけること。今回の横浜市長選挙では、投票した有権者に銭湯の入浴料の割引サービスが受けられる「選挙割」が行われた。この「選挙割」は十年ほど前から政治参加のきっかけづくりとして注目を浴びており、過去には約三百人が利用していたという。このような活動をもっと広げていけば、投票する人も増えていくだろう。

さて、ここまで二つの「投票数を増やす方法」を紹介してきた。だが、こうして投票率が上がった所で、本当に解決するのだろうか。選挙はリーダーを決めるものだ。適当に投票するようでは、本末転倒である。

では、どうすれば政治に関心を持つようになるのだろうか。

それは、あらかじめ選挙について考える機会を設けることで解消されると思う。政治への関心が高く、投票率が八十パーセントを下回ったことがないデンマークでは、中学校の授業で模擬投票がある。政治や政党について学習したり、話し合いをしたりすることで、どの政党を選ぶのかを決めている。このようなことが日本にも必要なのではないだろうか。日本の学校で公民を学ぶように、政党について調べる時間を設けるべきだと思う。最低限の知識があれば、自分で意見を持って投票することができるはずだ。生徒同士での話し合いもすれば、より客観的で慎重な政党選びも可能になるだろう。

このような工夫をすることで、投票率はもちろん、一人一人がしっかりと意見を持って選挙に参加できるようになるだろう。それまでにまだ時間がかかるが、私達国民は今の選挙を少しでも早く、より良くすべきである。